

第 4 回総合計画審議会における「目指すべき将来像」に係る意見

発言者	内容
〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合戦略の基本コンセプトには特徴が出ている。 ・ 遠くから来る人に PR する文面でありたいし、市民にも PR できるものが良い。
〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少により、コミュニティが寂しくなり、空き家が増え、遊休農地が増える…、そうしたネガティブな部分を防ぐような魅力ある茅野市、自然環境や生活環境が荒廃しない、維持できるということが伝わる将来像が良い。
〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくりは、今ある資源をどう活かすのかが大切だと思う。そこを考えた将来像にしたい。 ・ 「変わらないまち」も一つの魅力だと思う。
〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が子どもの頃のことを思い出すと、「良いまちだった」と感じる。地域コミュニティの良さや変に都市化しない観光都市の良いところ、そういうものがなくならなければ良いと思う。
〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茅野市に来て、暮らしやすい部分もあるし、そうでない部分もある。都会の息苦しさより、不便さの中にも魅力がある暮らし、そこがポイントになるのではないか。 ・ 2 次総の将来像（緑に囲まれた安全・快適なまち－茅野市）がちょうど程良いと思った。 ・ 「快適さ」や「穏やかさ」がこの地にはあっている。「ちょうどいい感じ」で収まる、何となくユラユラするようなしなやかさや多様性を持った表現が欲しい。
〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「それぞれにとっての安心実感都市」はどうだろうか。色々な細かい安心を実感できるような住まい方、ここに住む人が「ずっとここに暮らしたい」と思えるようなまちが良い。 ・ 女性がちゃんと働くことができる、自分の得たスキルを活かせるオシャレで働きたくなる環境の整備が必要。 ・ 茅野市はコミュニティがとても充実しており、そこは茅野市の財産だと思う。それぞれの地域の物語を、そこに住む人がプライドを持って語ること、しっかりとつないでいくことが必要になる。 ・ 茅野市らしさとして生涯学習がある。生涯学習都市として培われてきたことをしっかりと学び直し、茅野市の良いところの一つひとつ掘り起こして、どこでもイメージできるようなものではなく、茅野市しかない将来像にしたい。

〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事がある、生活する場所がある、自然環境と生活環境を含めた環境が整っている、という3点に集約できるのではないか。その3点それぞれで年代によりキーワード（高齢者や女性の活躍や子育て支援、地域資源の発掘…など）が出てくる。 ・世代間でもキーワードは異なる。20代から80代、90代までのそれぞれの年代層のキーワードをマトリックス的に落として、それを結び付けていくことも必要かもしれない。 ・10年先の時代の潮流を見据え、全ての世代が活かされる施策を茅野市の魅力向上と合わせて考えていくと、夢も出てくるのではないか。
〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や緑といったイメージを入れるなら、「八ヶ岳」という言葉を入れてもらいたい。 ・時代の変化が激しい中で、将来像は、10年というスタンスで考えたい。 ・高齢者や女性、若い世代というキーワードで一律にくくってもらいたくない。 ・自分が暮らすとしたら、「きれいで居心地が良いまち」に住みたい。ただし、「美しいまち並みの創造」には、落とし穴がある。グリーンヒルズビレッジは美しいまちだが、敷居が高いという声もある。 ・安心、安全は変わらない。変わらないことも大事だが、若い人には、変わらないことへの不安もある。例えば、古民家に暮らしてはいるが、IHクッキングヒーターを使うように、緩やかに将来に向けて変わっていかねばいけないものも出てくる。
〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・将来像については、10年スパンで考えたい。 ・茅野市は、他と比べると人口の減り方は緩やかだが、生産年齢人口は減っている。その点は、高齢者や女性の活躍によって補っていく。 ・地域コミュニティが充実していて、まち中で助け合いながら暮らしていく、自分の子どもが住んでみたいと思えるようなまちにしていきたい。
〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・農業には、茅野市の自然が大切になる。水、空気、肥沃な土地が重要な要素になると思う。「自然」がキーワードとして入ってくればありがたい。 ・山との共生をキーワードに入れてもらいたい。八ヶ岳という自然を活かし、縄文の要素も加えながら、今後10年、20年を考えたらどうか。
〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の孫が生まれるくらいまでが想像しやすい。 ・自分の子どもがたとえ茅野市から出ていったとしても、たまに帰省したとき「やっぱり茅野市は良いな」と思ってもらえるような茅野市にしていきたい。 ・帰ってくる場所がある、地域の見守りがあるから両親を残して安心して出ていける、そんな視点もあるのではないか。

〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼや畑が周りにあることがうれしい。農業が元気なら環境が守られるし、農村が守られていればコミュニティが活発になる。農業と観光が上手くコラボできれば良い循環になる。 ・茅野市は、緑豊かな都市というイメージがある。農業が柱の一つになれば良い。
〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・将来どうなりたいか、と考えたとき、「今のままの茅野市が良い」ということも一つの答えになる。しかし、それでは持続可能性が担保されないので、それに対処しなければいけないということだと思う。 ・「活性化」とは何かを考えたとき、計画を立ててその計画通り動いていることが活性化があることだと感じた。行政がやるべきことは、教育とアイデア実現のプラットフォームをつくること。 ・大事なことは「教育」だと思う。しっかりとした教育環境が整っていれば、茅野市で教育を受けさせたいと、若い世代が茅野市に来てくれる。地域資源の発掘やコミュニティ力の強化も教育に関わってくる。 ・英語教育が言われているが、英語を話すことより、その中身、何を話すか、何を知っているか、何を持っているかということが大切である。 ・今、先生は大変な状況に置かれている。そのためには、コミュニティスクールの考え方が大事である。 ・大学も学び直しの場合となることが必要である。生涯学習の拠点となるような大学をつくっていきたい。 ・社会教育の分野では、あちこちで似たようなことをやっている。それをつなぐ、連携をしていくような仕組みが必要だと思う。
〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がどういう老後をご過ごしたいかを考えたとき、20年後が心配になる。地域で助け合い、支え合いが行われていて、安心して暮らせる茅野市であって欲しい。 ・花火大会は、外へ出てしまった人たちが帰省するきっかけになっていた。故郷へ帰るきっかけとして、ぜひ復活してもらいたい。
〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・移住の相談件数が多いという話があったが、その相談が若い世代なのか、リタイアした世代なのかで喜んでいいのか、変わってくる。 ・女性が働く場がないという話があったが、この地域は、ある意味女性が働かなくても良い収入を得ている、ある意味豊かであるということも言える。 ・日本国中求人を出しても人手不足で集まってこない。こうなると情報技術等を活用して、少ない人数で効率的に働けるような仕組みにしていくしかない。 ・技術革新のスピードが速く、民間企業が事業計画を立てる場合、3年で計画する。行政であれば、10年という計画が良いと思う。 ・雇用の場がないから若い人は都心に行ってしまう。働く場所、夢を実現できる場所がこの地にあることが大切になる。それにプラスして環境や歴史、文化といったものがついてくる。

〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これから年を取って行って、誰もが思うことは、健康でいたい、健康で暮らしたい、いつまでも自分の足で歩きたい、ということだと思う。とにかく健康でいたいという想いは、10年先も20年先も同じだと思う。「健康」というキーワードを入れてもらいたい。人が健康なら、茅野市そのものも健康になる。 ・茅野市に住んでいることに誇りを持っていること、茅野市への愛着、茅野市が好きだということを、子どもたちに見せることも重要になる。
〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・将来計画は、次の世代にこのまちを引き継いでいくための計画である。次の世代に何を残すのか、どういう状態で引き継いでいくのかが大切。豊かな自然や安全・安心を支える地域コミュニティ、仕事、この3つをどう次の世代に引き継いでいくのか、そういったまちづくりが必要。 ・この地域に新しいビジネスを創り出していく視点が大事。その余地はある。起業・創業のサポート体制をつくっていくべきだ。 ・「自然」に対する茅野市の差別化を図り、自然が豊かなこの地で仕事ができるという優位性を打ち出したらどうか。 ・20年後、30年後に茅野市が今のまま残っているのか。20年、30年先を見据えて、広域で取り組むことと茅野市で取り組むことを棲み分けて分けて考えていかなければいけない。
〇〇委員	<ul style="list-style-type: none"> ・将来像としては、10年後が良い。10年後には、第6次総合計画を策定するので、そのときに将来像を見直せば良い。 ・3次総と4次総では、時代の潮流の捉え方に大きな違いがある。 ・市民プランのときは、より前向きな、積極的な意見が多く、「人も自然も元気で豊か 躍動する高原都市」に決まった。 ・ここまでの意見を聞くと、守りと攻めの中間より、若干攻め寄りの意見が多かった。前回と経済状況も社会情勢も違っているので、当然そうなると思う。こういった時代だからこそ、より豊かなものを求めていくということも大切になる。